

「新たな教育のスタイル」の確立に向けた  
「次世代の学びの基盤プロジェクト」  
中間の取りまとめ

令和8年3月  
東京都教育委員会

# 「新たな教育のスタイル」の必要性

## 背景

- これからの世界は、政治や経済の複雑化や変化の加速などにより、一層予測が困難  
国際情勢の複雑化、地球規模の気候変動、少子高齢化、技術革新、価値観の多様化 等
- 子供を取り巻く環境の中に、**AI やロボット、IoTなどの技術**が浸透  
誰もがあらゆる知識や技術に、いつでも・どこでもアクセスすることが可能

## ポイント

- これからの教育では、予測できない状況に柔軟に対応できる力を伸ばし、**世界で生き抜く人材**を育成することが必要
- 日々進化する**生成AIなどのデジタル技術**を使いながら、  
リアルの世界の学びを巧みに組み合わせる取組が不可欠

「AI」と「グローバル・リーダー」の力を結集して、「**自立した学習者**」を育成

※グローバル・リーダー：ノーベル賞受賞者やユニコーン企業の創業者等のグローバルで活躍する人材

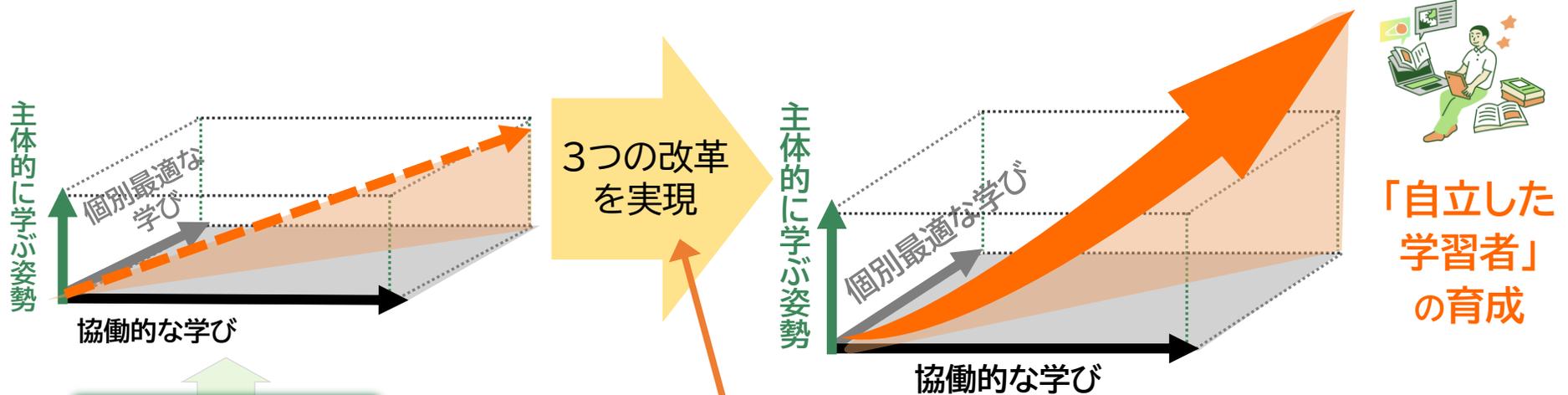
知識や思考力、創造性、社会性などとともに、生涯に渡り、持続的に学び続ける力、  
自分で選択し決定する力(自己デザイン力)を持ち、協働して課題解決に取り組める、予測困難な時代を生き抜ける人材を

「AI」と「グローバル・リーダー」の力で最大限高める

「**次世代の学びの基盤プロジェクト**」を展開

# 「次世代の学びの基盤プロジェクト」が目指すもの

「AI」と「グローバル・リーダー」の力を結集した3つの改革で「自立した学習者」を育成



主体的に学ぶ姿勢の高まり

個別最適な学び

協働的な学び

生徒は、教材や学習時間等を最適になるよう自ら調整

教員は、生徒の状況に応じきめ細かい指導

生徒同士等で議論し、互いに考えを尊重し刺激し合う探究活動や体験活動等

## 「AI」と「グローバル・リーダー」の力を結集

① DXによる学びの改革

デジタルとリアルの最適な組み合わせ

② 教員と組織の改革

教員の役割や組織のあり方の改善

③ 制度の改革

学習内容や方法、単位の認定等の柔軟な運用

# 「次世代の学びの基盤プロジェクト」による3つの改革

## 「AI」と「グローバル・リーダー」の力を結集

生成AI技術とグローバル・リーダーの知見を結集することで、DXを加速させ、教員組織の力を高め、現場に根ざした制度改革を実現

### ① DXによる学びの改革

#### デジタルとリアルの最適な組み合わせ

- AIなどのデジタル活用の強化でさらに深い学びを充実
- 生徒が学びをデザインできるようデジタルで時間や場所等を柔軟化し、学びの領域を拡大
- グローバル・リーダーを招聘した授業の展開

### ② 教員と組織の改革

#### 教員の役割や組織のあり方の改善

- AIを活用した授業をデザインして、生徒自身が学び深める意欲を引き出す指導へ
- コーチング・ファシリテーションの意図的・計画的な活用など、教員の役割の変化
- 外部の専門的な知見を活用して、個々の教員の所属する組織の整備

### ③ 制度の改革

#### 学習内容や方法、単位の認定等の柔軟な運用

- 学ばなければならない科目とその学習内容や指導のルール等を柔軟化
- 出席の扱いや単位認定など、評価方法の柔軟化
- 免許要件など、生徒への学びの提供の柔軟化

# 3つの改革を実施して、目指す学校の姿

## 日常的なAIの活用

## グローバル・リーダーとの交流

### 学び方

生徒自身の  
知識や興味に応じた  
生徒一人一人の学び

専門家や企業の人材から  
リアルな社会課題を扱った  
新たな価値の学び

### これからの学び

教員の斉指導  
による学び

学校や教室の中で  
時間割に則った学び

これまでの  
学び

免許を持つ教員から  
教科書を通じた学び

年間で決められた  
時間を使う学び

### 時間と場所

AIなどデジタルを活用し  
生徒自身が時間や場所  
を選ぶ学び

費やした時間量でなく  
論文やコンテストなどの  
成果で評価される学び

### 学習の内容と指導者

### 学習の成果と評価

最先端の知識を主体的に学び、AIを駆使して新しい価値を創造し、

世界で生き抜く「自立した学習者」を育成

# ① DX デジタルとリアルの教育の展開

## ポイント

AI × グローバル・リーダー

デジタルとリアルを組み合わせ  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバージョンアップ

## デジタル の教育

- ▶ AIやデジタル教材による、きめ細かくレベルの高い知識の提供
- ▶ 学ぶ時間や場所を自分で選択することを実現するデジタルツールの活用

- ◎ 生成AIを使いこなすデジタル教材の開発
- ◎ AI活用による学習サポート
- ◎ 学校の教室外での時間や場所で、デジタルツールを使い授業の内容を提供

## リアル の教育

- ▶ 生徒の興味関心に応じて、校外のリアルの場での探究活動
- ▶ 様々な現象や状況の実体験による教科横断的な知識の活用

- ◎ 民間の研究機関や企業等の現場でのグローバル・リーダーから知識を習得
  - ◎ 民間の指導者等による多様な現場での体験・思考・判断・表現の機会の確保
- ※リアルの教育の効果を、より一層高めるためデジタルツールで情報共有する工夫

# ① DX デジタルとリアルな教育を支える新たな仕組み

## 支える 仕組み

デジタルの教育とリアルな教育の学習状況を把握し、各生徒が興味関心に応じて主体的に学ぶ姿勢を高める仕組みを展開

- ◎デジタルテスト(CBT) AIを活用して、テスト(作問・解答)・採点・評価・学習到達度に応じたフィードバックをデジタル上で実施
- ◎学習管理システム(LMS※) 教員と生徒がデジタルでコミュニケーションを図りながら、いつでも・どこでも学習成果を振り返り、生徒の多様な学習をサポート
- ◎オンデマンド教材等の学びを単位認定 オンラインやオンデマンド等の教室以外での学びを評価、単位認定(現在は限定的な側面があり、国と連携した対応が必要)

デジタルの教育

×

リアルな教育

新たな学びを支える仕組み

# ① DX 生徒と教員をきめ細かく結ぶLMSの活用



学習履歴を可視化して、生徒や教員が対話しながら、学びの意欲を向上させつつ、いつでも・どこでも学習できるシステムを導入し、学びや伴走の効果を高めていく

## LMSの機能(例)

- ①学習履歴(スタディ・ログ)・データの蓄積・利活用
- ②生徒と教員がコミュニケーション

# ② 教員「自立した学習者」を育成する教員

学びの領域や方法の拡大に伴い、教員に求められる力も変化

## これからの教員に求められる力

教科・科目(教育課程)を、AIやグローバル・リーダーの活用など、新しい視点でデザインする力

外部の力の活用 外部のグローバル人材や専門機関等とのコーディネート

DXの活用 生成AIなど最先端のデジタル技術等を積極的に取り入れ、使いこなしていく

生徒一人一人に伴走しながら、授業を計画しより効果的に実施する力

ティーチング・コーチング・ファシリテーション

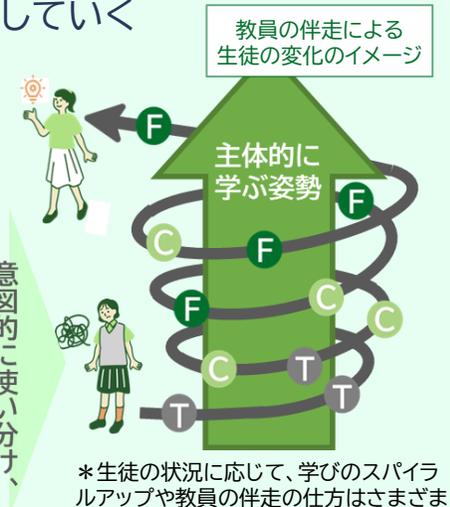
T C F を、  
生徒の状況に応じて  
これまで以上に使い分け

**T**eaching  
ティーチング  
知識や技能を  
分かりやすく  
教え、習得させる

**C**oaching  
コーチング  
個々の生徒が目標を  
達成するために支援し  
学びのプロセスを  
決定させる

**F**acilitation  
ファシリテーション  
協働的な学習を促進し、  
他者との効果的な  
コミュニケーションを  
構築させる

意図的に使い分け、  
生徒の学びに伴走



多様な評価 生徒の学習に関して、ペーパーテストだけではなく、生徒の成果物などを使って多面的に評価

学習履歴の利活用 教育活動の記録・履歴(学習ポートフォリオ)のより一層の活用

## 「学び続けて、成長し続ける教員」

## ② 教員「学び続けて、成長し続ける教員」の育成

教員のあり方を研究するとともに、新しい研修や授業実践を繰り返し、教員を育成

### 「教員のスキルアップ・プロジェクト」

大学や研究機関からの指導者等の導入

海外のグローバルで最先端の知見の活用

- AIを活用した新たな授業のデザイン
- これからの教員に新しく求められる資質・能力の研究
- 新たな研修の開発
- AIやデジタル教科書、LMS等を活用した取組との相乗効果を研究

研  
究

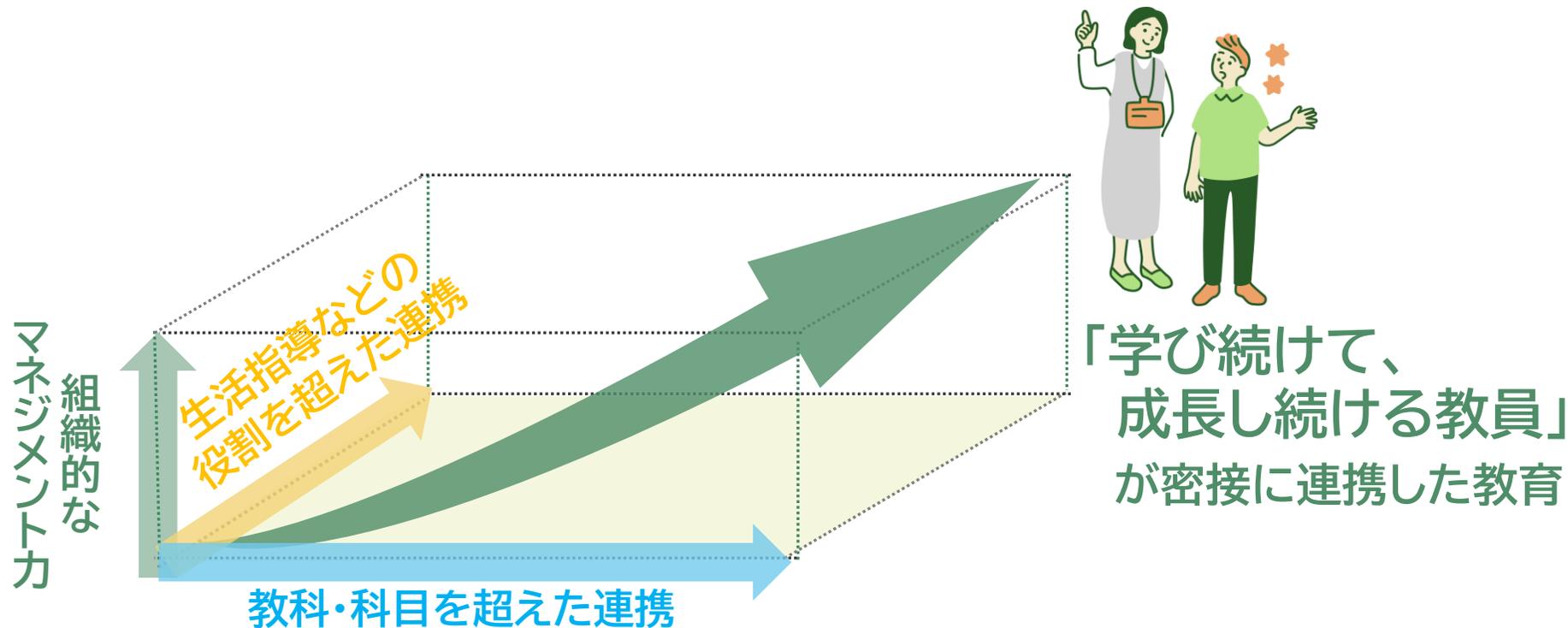


実  
践

- コーチング・ファシリテーション研修
  - ・ 管理職含めたすべての教員が習得し組織的に人材育成
  - ・ 年次・職層・専門性向上等、各研修で体系的に実施
- デジタルとリアルを融合した新しい授業の研修実施
- グローバル・リーダーと連携した授業の実践

## ② 組織

### 「学び続けて、成長し続ける教員」を活用する学校組織



- 教員が授業で教える「教科・科目を超えた連携」、授業以外に教員が担う「役割を超えた連携」を密接につなげ、**外部人材の知見を活用**して、学校の教育力の向上を検討
- **AI等のデジタル技術を活用**した情報共有や意見交換

# ③ 制度

2つの改革を進めていくと、**制度の改革** も必要

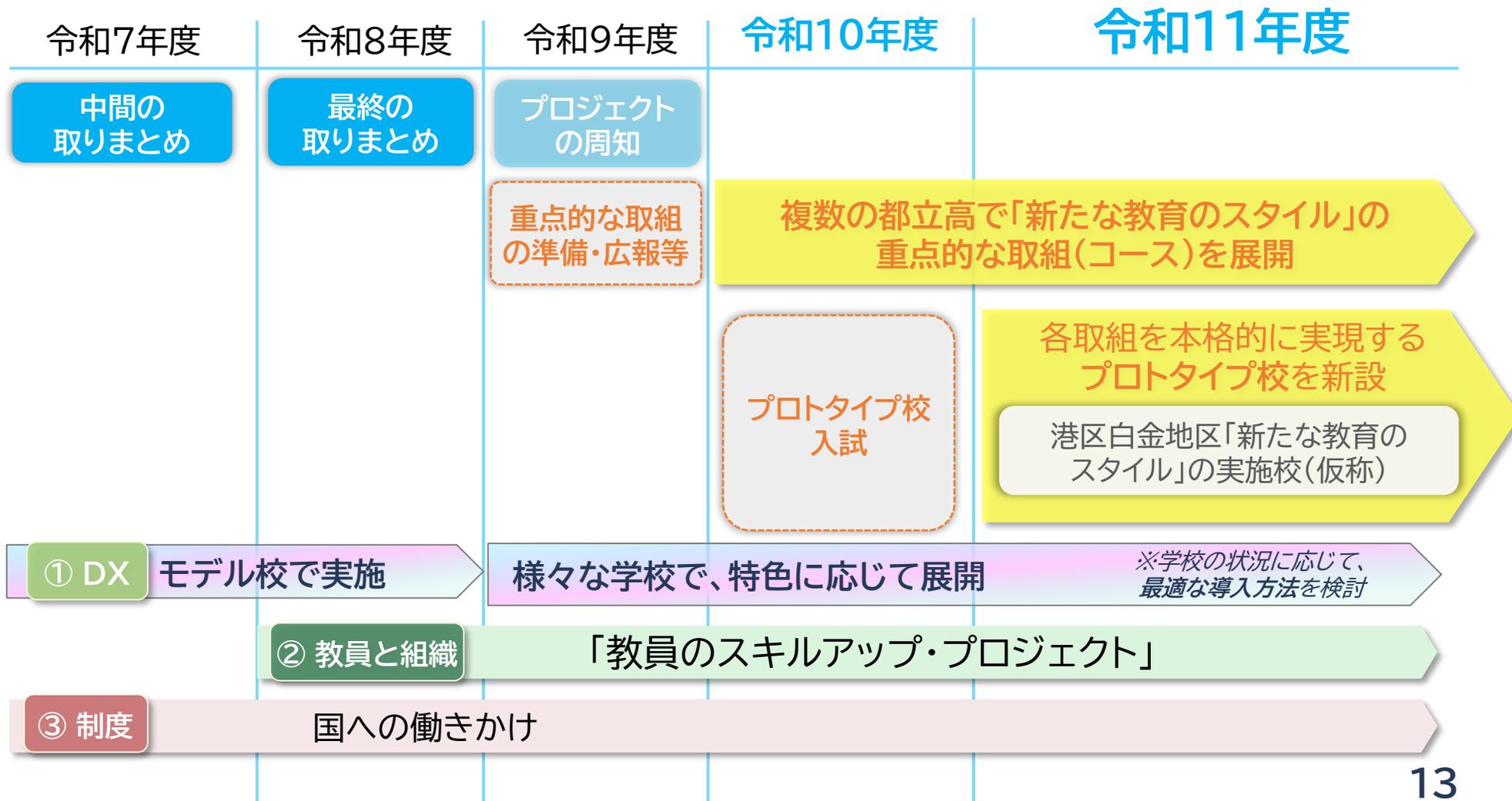
国に働きかけ、目指す学校の姿を実現

## 検討ポイント(例)

- ✓ **AI等**のデジタルの仕組みを教育の仕組みにどう反映すべきか
- ✓ 学校に通うスタイルは  
どう捉えていくべきか
- ✓ オンデマンドやデジタルの教材の  
適切な使い方は何か
- ✓ 生徒の学びの成果は  
どう評価するのが適切か
- ✓ 科目修了の単位認定は  
どのような仕組みが適切か
- ✓ 外部の専門人材活用のための免許制度は、どうあるべきか 等

# 今後のプロジェクト展開

令和8年度に、最終の取りまとめを行うとともに、各学校が「新たな教育のスタイル」を特色に応じて展開、**令和10年度**には複数の学校で「新たな教育のスタイル」の重点的な取組を展開



「新たな教育のスタイル」の確立に向けた  
「次世代の学びの基盤プロジェクト」  
の取組の成果  
(中間の状況と成果)

# DX デジタルの教育の展開

## デジタル教科書の導入・活用 : 各生徒の理解度に応じて効果的に学習

### これまでの課題

- ✓ 授業の中で、生徒一人一人の理解度を踏まえた効果的な学びをどう実現するか
- ✓ いつでもどこでも、生徒自身が、習ったことを自分のペースで定着する学びをどう実現するか
- ✓ 生徒一人一人の関心に応じた深い学びをどう実現するか

### 取組状況

- ✓ 図を動かしたり、本文を音声で聞く等、ビジュアルや音声で学べるようになる  
(教科ごとの例) 英語 : ネイティブスピーカー等の音読の速度変更機能  
数学 : 式とグラフの関係を視覚的に理解できるグラフ作成機能
- ✓ 動画や関連教材、テストや問題等の解説動画等が繰り返し視聴できる
- ✓ 関連するURLのリンクを貼れる等、教科書以外の教材・情報とも結びつけが容易になる

### 今後の展開

- ✓ 自分の理解度に応じて機能を使い分け、これまで理解に時間がかかっていた生徒も直感的に理解
- ✓ 復習や宿題など授業以外の場面でも、苦手は繰り返し学習し、知識を定着できる
- ✓ 習ったことをさらに広い情報につなげながら、興味関心のある内容を深く学習ができる

# DX デジタルの教育の展開

## AIを活用した英語教育の充実 : 基礎の効率的学習と、応用・創造的学習の充実

### これまでの課題

- ✓ 生徒自身が、主体的に深く考えながら、より良い英語表現を学ぶためにどうするか
- ✓ 出来るだけ触れる時間を増やすことが望ましい英語の「書くこと」の学びをどう実現するか

### 取組状況

- ✓ アプリが、生徒が作成した英作文やエッセイ等を瞬時に添削し、文法や語彙のミス等をチェックし、生徒自身がミスを修正できる
- ✓ 生徒は、いつでもどこでもアプリを活用できる

### 今後の展開

- ✓ 生徒は、自分の理解度を把握しながら英作文を書くことで、「書く力」や「思考力」が深化する  
また、教員による指導は、スペル等のミスのネガティブチェックから、内容や構成を磨くクオリティチェックに進化する
- ✓ 生徒は、放課後や休日等にもAIによる添削を参考にしながら何度も学習し、知識を定着できる

# DX デジタルの教育の展開

## 新分野のデジタル教材を開発 : 学ぶ「領域」「時間・場所」を拡大

### これまでの課題

- ✓ 学習指導要領の枠に縛られず、社会で生き抜くための力を養う学びをどう実現するか
- ✓ 知識の習得にとどまらず、創造的に挑戦できる学びをどう実現するか
- ✓ 生徒一人一人が、興味関心に応じて学びを深める機会をどう確保するか

### 取組状況

- ✓ 「生成AI」「データサイエンス」「行動経済学・ゲーム理論」「アントレプレナーシップ」「クリエイティブグラフィックアート」の5教科(科目)を開発
- ✓ 課題解決型学習で、課題設定から実践までを行える
- ✓ デジタルブックや動画、テスト等、1単位分(50分×35週(回))のデジタル教材を使える

### 今後の展開

- ✓ 多様な視点に触れ、意欲や課題意識を育み、行動変容を促進できる
- ✓ 創造性、チャレンジ精神等を身に付け、自ら未来を切り拓く学びができる
- ✓ 興味関心を深める学びにいつでもどこでもアクセスできたり、学校設定科目や関連授業で活用できる

# DX デジタルを組み合わせるさらに広がるリアルの教育

## 生徒が主体の「探究」活動：探究学習がさらに深まり、広がる

### これまでの課題

- ✓ 多様な生徒の興味・関心に対応したり、学校単位では実現に限界がある大学や企業と連携等を、どう実現し、探究の幅を広げるか
- ✓ 他校の状況や好事例を具体的に知る機会をどう確保するか

### 取組状況

- ✓ 「学校単位」や「個人単位」で選択可能な探究プログラム「Tokyo IBL Project Scope (TIPS) プログラム」を構築し、学校の状況に応じた支援を行い、都立全体の探究活動を充実・深化できる
- ✓ 全都立学校が一堂に会するイベント「都立高校TIPSフォーラム2025」で、都立高校生徒同士で成果を相互に発表できる

### 今後の展開

- ✓ 「生徒個人」で参加可能なプログラムで、多様な興味関心や高度な探究活動にも対応したり、デジタル活用や外部機関との連携等を広げ、これまで都立高校で実施してきた探究学習がさらに深化
- ✓ 代表校による発表や各校生徒によるポスターセッションを通して、都立高校生同士が互いに学び合い刺激を受け、探究学習の魅力や楽しさを実感し、さらなる学びへとつながる機会に

# DX デジタルを組み合わせるさらに広がるリアルの教育

## 民間の力を活用した多彩な講座：興味関心のある専門的な学びを拡大

### これまでの課題

- ✓ 生徒が興味関心を持つ分野を、専門的に深められる学びをどう実現するか
- ✓ 生徒が興味関心のある学びを深め、成果を残したり、評価したりするサポート体制をどう充実するか

### 取組状況

新宿山吹高校(通信制課程)で、生徒の興味が高いデジタル分野の講座をモデル実施

- ✓ 実務経験等を持つ専門家から、直接デジタルイラストやモバイルアプリ等の講座を受けられる  
(令和7年度は日本電子専門学校の実務経験や専門性を持つ講師から受講)
- ✓ MOS検定やWEBデザイナーの検定対策講座を、対面やオンデマンド等で開講し、  
成果を残すサポートを行い、学校外の成果を単位認定する仕組みを一層活用できる

### 今後の展開

- ✓ 生徒が興味を持つ分野の専門的な学びに触れ、その分野の学びをさらに深めたいという意欲が向上するとともに、将来の仕事を想像した学び進路意識が醸成できる
- ✓ デジタル活用で興味関心を深める学びの機会を柔軟に確保しながら、学びの成果を検定や作品等で形にして、生徒の学校外での成果をより一層評価できる

# DX デジタルとリアルの教育を支える新たな仕組み

## デジタルテスト(CBT) : 評価の方法を多様にする

### これまでの課題

- ✓ デジタルを活用した学びの成果を測る一体的なプロセスを、どう実現するか
- ✓ 成果の把握、評価、フィードバックを、どう効率的に実現するか
- ✓ 学習到達度に応じた個別最適な学びを、どう効果的に実現するか

### 取組状況

- ✓ これまで難しかった音声や動画による出題など、多様な形式での出題・解答ができる
- ✓ 作問や採点、評価、フィードバックをデジタル上で行い、印刷や保管等の手間を省略し、迅速化できる
- ✓ 解答や結果を学びのデータとして蓄積し、分析できる

### 今後の展開

- ✓ 実践的な場面で生きる知識・技能を測り、思考力・判断力・表現力等をよりの確に評価できる
- ✓ 生徒は、テスト後にすぐ結果を見て復習したり、教員のフィードバックをもとに繰り返して学習できる
- ✓ 教員は、蓄積したデータを分析することで、生徒の学びを多角的に評価・フィードバックできる

# DX デジタルとリアルな教育を支える新たな仕組み

**LMS(Learning Management System)**：学習履歴を可視化し、多様な学びを実現

## これまでの課題

- ✓ 生徒が自らの学習を客観視し、学びをデザインできるようなサポートをどう実現するか
- ✓ 教員が、生徒の学習状況をより適切に把握し、生徒主体の学びに伴走する仕組みをどう実現するか

## 取組状況

課程の特徴に応じて、効果的な仕組みを検討

### 【登校して学ぶ全日制・定時制】

- ✓ 教員が、多様な教材を配信しやすくなり、学校内の学習をさらに充実しながら、予習や発展的な教材の配信で学校外の学びもサポートできる
- ✓ 教員が進捗を見守り、学校内外を問わず生徒の主体的な学習に伴走できる

### 【自学自習の通信制】

- ✓ 自分の学習状況が量や時間で可視化でき、自律的に学習計画を立てて進めるサポートをできる
- ✓ 対面で関わる機会が少ない教員と生徒の日常的なやり取りが可能になる

## 今後の展開

- ✓ 生徒の学習履歴を可視化し、いつでも・どこでも学習成果の振り返りができる
- ✓ 教員が学習をより把握して生徒との双方向コミュニケーションを活性化し、より適切に支援できる

# DX デジタルとリアルな教育を支える新たな仕組み

**オンデマンド等による単位認定**： 単位認定の方法を柔軟化する

## これまでの課題

- ✓ 生徒が自分で場所や時間を選択できる学びを、どう実現するか
- ✓ 生徒自身がデザインした学びの成果を評価する仕組みを、どう実現するか

## 取組状況

- ✓ 校内別室等で、オンラインを活用した遠隔授業や、オンデマンド教材を活用できる
- ✓ 校内別室等から参加した授業も、出席の取扱いや単位の認定を柔軟に検討し、評価できる

## 今後の展開

- ✓ オンデマンドやオンライン等のデジタルで、生徒一人一人の多様な場の主体的な学びを促進できる
- ✓ 学校外から参加した授業も、教室内で学んだ場合と同様に評価し、単位認定できる